

Glocal Tenri



7

月刊 **グローバル天理** Monthly Bulletin Vol.15 No.7 July 2014

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- 巻頭言
沈没事故を他山の石に
／深谷忠一 1
 - 天理教教理史断章 (82)
近愛文書③
／安井幹夫 2
 - 『教祖伝』探究 (1)
はじめに
／深谷忠一 3
 - 天理教伝道史の諸相 (31)
北米、ハワイ、ブラジルへの伝道
／早田一郎 4
 - 「おふでさき」天理言語学試論～「こ
と」的世界観への未来像～ (3)
第1章「もの」と「こと」の意味論
／井上昭夫 5
 - 「おふでさき」の有機展開 (27)
第四号：第四十四首～第六十八首
／深谷耕治 6
 - 新宗教のブラジル伝道 (15)
キリスト教の変容⑫
／山田政信 7
 - 「いのち」をつなぐ一生死の現象 (31)
「いのち」について②
／堀内みどり 8
 - ノーマライゼーションへの道程 (29)
デンマーク事例①
／八木三郎 9
 - 東日本大震災と宗教 (1)
東日本大震災の現状—データより
／澤井治郎 10
 - 図書紹介 (83)
『種痘伝来—日本の〈開国〉と知の国
際ネットワーク』
／幡鎌一弘 11
 - English Summary 12
 - おやさと研究所ニュース 13
- 新連載執筆のねらい／連載執筆者の紹介／
「おやさとふしん青年会ひのきしん隊第 806
回隊」に参加／「ようぼくの集い」講師と
してヨーロッパ・アフリカ地域へ／台湾で
日本語教育学の国際シンポジウムに参加／
「Religion and Pluralities of Knowledge」会
議に参加して／出張報告：デンマーク／第
56 回印度学宗教学会学術大会に出席／第
271 回研究報告会 『ヴェニスの商人』の小
箱 (casket) をめぐるエンブレムの解釈につ
いて／おやさと研究所「開講 20 周年記念・
公開教学講座」のお知らせ

巻頭言

沈没事故を他山の石に

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

韓国の旅客船セウォル号が沈没した事故
が起きた背景について、暗澹たる気持ちにさせ
られる事実が次々と報道されている中、少し
は心が救われる文章に出会いました。HUFF
POST SOCIETY というサイト (http://www.huffingtonpost.jp/mina-sohn/post_7511_b_5277979.html)
に掲載されたソン・ミナ氏による「怒りに熱
くなり、行動せずに忘れてしまう韓国の国民
性の代償はあまりに大きい」という投稿です。
(以下は抜粋)

これは本当に安全不感症の問題なの？
これは本当に（事故を起こした船会社
の会長が創始者だった）特定の宗教の問題
なの？これは本当に政経癒着の問題なの？
これは本当に生徒を盲目に従わせる
韓国の教育の問題なの？これは本当に船
長一人が悪魔なのだと説明して済む問題
なの？—中略—

問題は、同じことが繰り返されると
いうことです。もっと大きな問題は、私
たちがあまりにも早く忘れるということ
です。実際に何も改善されず、また同じ
災害が繰り返されるということです。何
人かの被害者以外は、まるで記憶喪失の
患者のように忘れてしまうということ
です。こんなことがないようにするのがメ
ディアじゃないですか？—中略—

誰かのせいにするのも、今では重要で
はありません。過去の歴史が積み重ねて
きた不満と不信を爆発させることも二の
次です。今、最も重要なのは、この大事
件の被害者のためにすべての力と心を集
中することです。

ただし、今回はそれだけで終わらせて
はいけないことがあります。露呈してい
る腐敗した政策は正さなければならず、
責任者は絶対に謝罪で終わらせず、逃が
さず、本当に代償を払わせなければなり
ません。そして韓国は、簡単に許しても、
忘れてはいけません。

西海フェリー号が沈没したときも、聖
水大橋が崩壊した時も、三豊百貨店が崩
壊したときも、大邱地下鉄火災が起きた

時も同じ決意をしましたが、また忘れま
した。我々は本当の悪魔を逃し、しばら
く自分を責めて簡単に過去を忘れてい
るのかもしれませんが。怒りに熱くなり、行
動せずに忘れてしまう長い国民性の代償
はあまりに大きいのではないでしょう
か。—中略—

事件の直接の原因となった海運会社と、
無能の極致を露呈している政府、先を争っ
て不正確な報道を流したメディアはもち
ろん、韓国に住む私たちは皆、自分自身
を振り返らなければなりません。一人一
人が生きる上で何を変えられるのか。涙
を拭いて、もっと鏡を見て間違いを正す
必要があります。犠牲者の遺族のために、
私たちはこの事故の意味を永遠に記憶す
る必要があります。骨に刻み込んで一つ
一つ、思い出し続けなければなりません。

傷ついた魂を癒すのと同じくらい、私
たちの社会に潜んだ問題をすべて暴いて
分析して解決策を講じることが重要で
す。全員が責任意識を持ち、どんなこと
があっても、どんなに多くの時間がか
かっても、この痛みを忘れず、韓国の膿
んだ傷をえぐって肉をさらけ出す必要が
あります。私たちがしなければならな
いことは言葉よりも実践です。—中略—

今回だけは、これまで以上に理性を取
り戻し、本当の問題を見つけて、全員が
改革に参加しなければなりません。韓国
は今、歴史を書き直す瞬間を迎えており、
私たちすべてが「大韓民国号」の船長だ
からです。しかし、それには責任と義務
を果たさなければいけません。船長の皆
さん、どうしますか？

セウォル号沈没の犠牲者及びそのご家族に
心底よりの哀悼の意を表するとともに、韓国
で今起きていることを他山の石として、世界
一列の兄弟姉妹の身に起きた不幸な事態をす
ぐに忘れないよう、そして、お互いの“我さ
え良くば！今さえ良くば！の心”を駆逐して、
悲惨な人災事故が起きない社会を作り上げた
いものだと思う次第です。